

1 上川のあらまし

① 歴史

1798	寛政 10	7月、幕吏3名が天塩川を遡り上川に来る
1807	文化 4	秋、幕吏近藤重蔵が石狩川上流を踏査
1857	安政 4	開拓使判官松浦武史郎が上川探検
1872	明治 5	開拓使使掌高畑居久馬（利宣）が上川の地勢、戸口状況調査
1885	〃 18	司法大輔岩村通俊、屯田兵本部長永山武四郎一行が近文山に登り地勢視察
1886	〃 19	忠別農作試験所設置、上川仮新道を開さく、上川鉄道予定線を測量
1890	〃 23	永山村屯田兵舎建築、上川郡に神居、旭川、永山の3村設置
1891	〃 24	永山村に屯田兵400戸移住、以降屯田兵の入植が進む
1897	〃 30	石狩国上川郡に上川支庁を設置
2010	平成 22	4月、上川総合振興局に改組、幌加内町を編入

② 位置・面積

北海道のほぼ中央に位置し、地形は南北に細長く、東西 96.7 km、南北 224.4km、面積は 10,619 km²で全道の 12.7%を占めています。これは、岐阜県（10,621 km²）に匹敵する広さです。

（令和5年全国都道府県市区町村別面積調）

③ 地勢

中央を旭岳（2,291m）が主峰の大雪山系、北を天塩山系と北見山系、さらに南を夕張山系と日高山系が走行し、それぞれ広大な上川、名寄、富良野の各盆地を形成しています。

また、中央部は大雪山に源を發する石狩川が貫流し、北部は天塩岳に源を發する天塩川が縦断しており、南部は石狩川の支流である空知川が流れ、本道農業の中心地として広大な沃野を形成しています。

④ 気候

北海道のほぼ中央に位置し、四方が山に囲まれた内陸地帯の盆地であるため、冬季には最低気温 -41.0°C （旭川市：明治35年1月25日）、夏季には最高気温 38.5°C （富良野市：令和3年8月7日）を記録するなど、冬季と夏季の寒暖の差が極めて大きな内陸性気候となっています。なお、最低気温 -41.0°C は気象官署として全国1位の記録です。

また、南北に細長い地形のため、中央部・富良野・北部各地区の気象条件には相当の開きがあります。

（国土交通省気象庁HP：過去の気象データ検索による）

⑤ 人 口

上川管内の令和5年1月1日現在における住民基本台帳人口は469,417人で、これは全道の約9.2%を占めており、振興局別でみると、石狩振興局に次いで第2位となっています。

また、65歳以上の高齢化率は35.5%で、全道の32.8%よりも高くなっています。

国勢調査実施年でみると、1965年(昭和40年)までは増加していましたが、1975年(昭和50年)に初めて減少し、1985年(昭和60年)に増加に転じましたが、1995年(平成7年)から再び減少となり、その後2020年(令和2年)まで連続で減少が続いています。なお、2021年(令和3年)以降も住民基本台帳調査ベースで減少が続いています。

<人口及び世帯数>

市町村	人口(人)	世帯数(戸)
旭川市	322,894	176,789
士別市	17,163	8,903
名寄市	25,940	14,137
富良野市	19,933	10,284
鷹栖町	6,644	3,098
東神楽町	9,894	4,328
当麻町	6,164	3,012
比布町	3,488	1,761
愛別町	2,528	1,280
上川町	3,153	1,849
東川町	8,084	3,770
美瑛町	9,458	4,731
上富良野町	10,051	5,217
中富良野町	4,630	2,151
南富良野町	2,289	1,300
占冠村	1,073	645
和寒町	2,990	1,515
剣淵町	2,883	1,427
下川町	3,001	1,632
美深町	3,860	2,046
音威子府村	667	453
中川町	1,329	722
幌加内町	1,301	706
上川管内	469,417	251,756
※全道	5,095,703	2,771,039

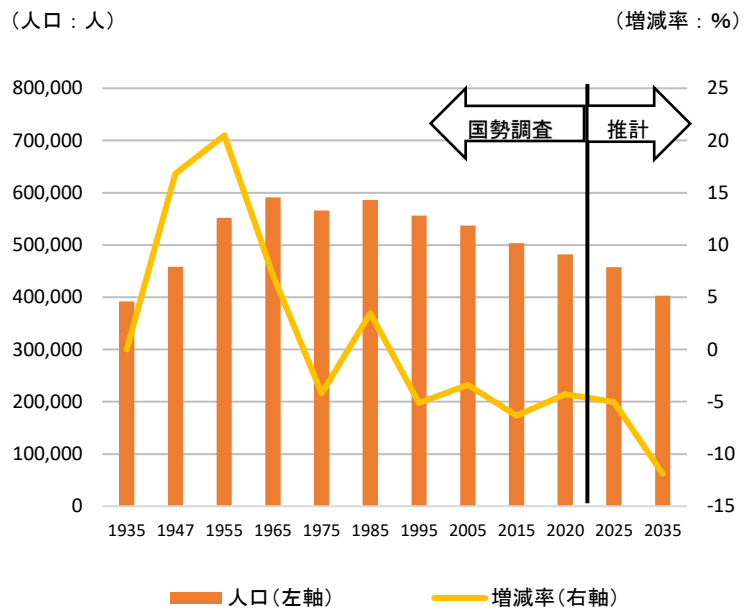
(令和5年1月1日住民基本台帳調査)
※外国人住民数を含まない。

<住民の年齢構成>

年齢区分	上川管内(人)	比率(%)	全道(人)	比率(%)
0~14歳	48,404	10.3	531,019	10.4
15~64歳	254,314	54.2	2,895,682	56.8
65歳以上	166,699	35.5	1,669,002	32.8

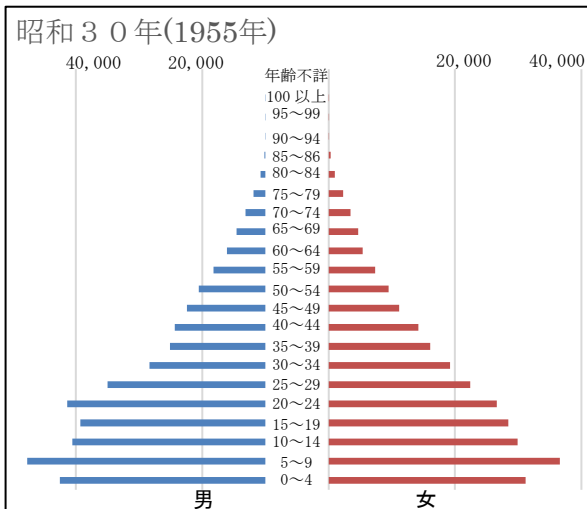
(令和5年1月1日住民基本台帳調査)
※外国人住民数を含まない。

<人口及び増減率の推移・将来推計>

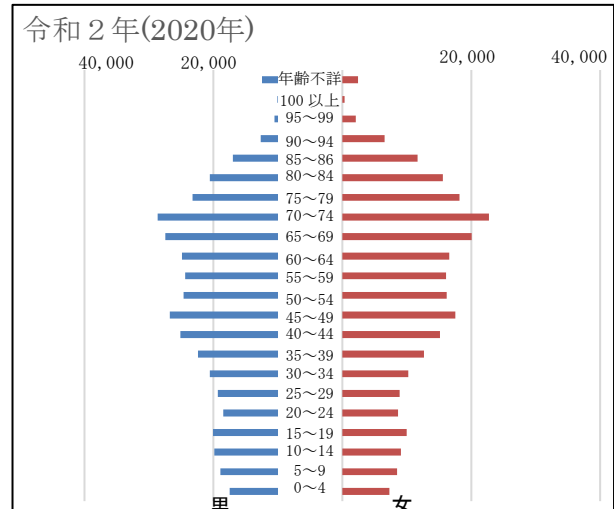


(1935~2020：国勢調査)
(2025~2035は国立社会保障・人口問題研究所推計)

<人口ピラミッドの変化>



<人口ピラミッドの変化> 【単位：人】



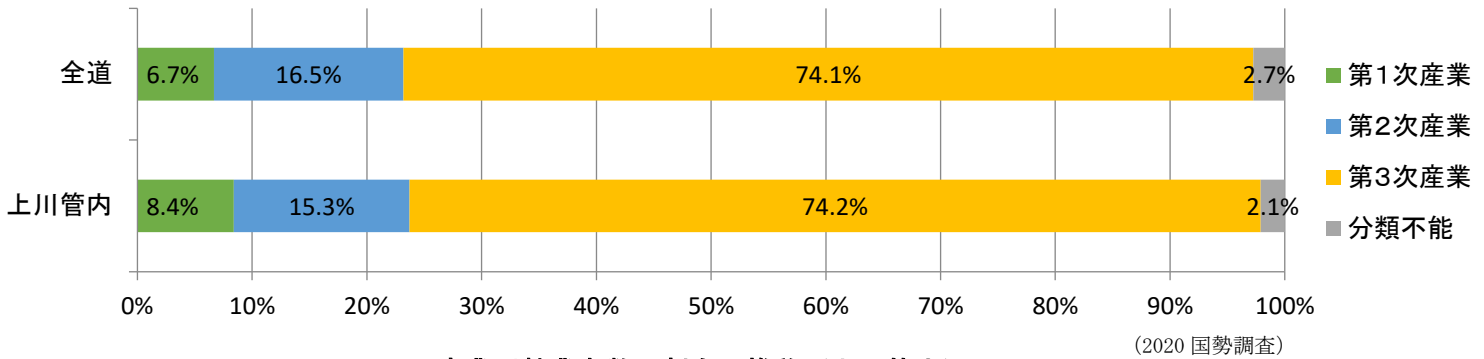
(1955・2020：国勢調査)

⑥ 就業構造

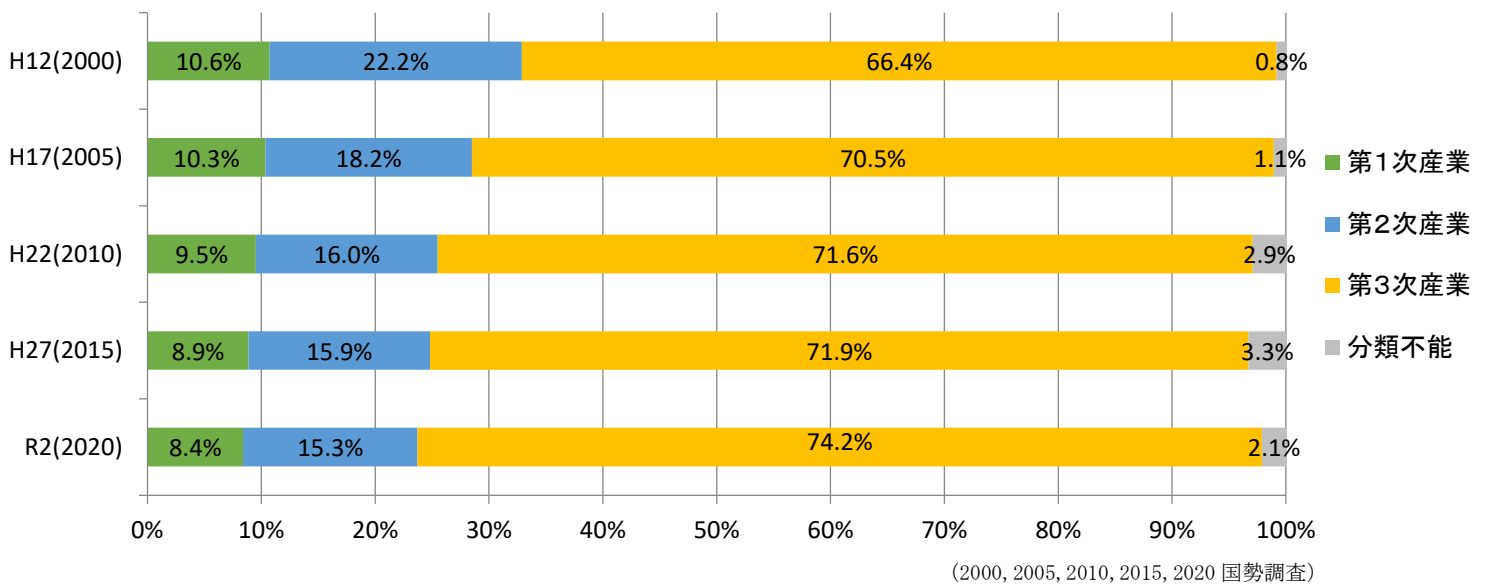
上川管内の就業者数は、223,811人（令和2年国勢調査）で全道の9.5%を占めています。産業別で見ると、第三次産業の就業者数の割合が年々増加し、第一次及び第二次産業の割合が減少しています。

また、年代別で見ると、少子高齢化が進み、60歳以上の就業者数の割合が年々増加し、令和2年国勢調査では、その割合が26.8%となっています。

＜産業別就業者数の構成比（全道、上川管内）＞



＜産業別就業者数の割合の推移（上川管内）＞



＜年代別就業者数の割合の推移（上川管内）＞

